

特集

ここが変わった！ 膀胱癌診療 新ガイドラインを読み解く

企画にあたって

今回、4年ぶりに膀胱癌診療ガイドラインの改訂が行われた。この4年間で、膀胱癌の診断・治療は大きく変化を遂げた。

今回の改訂では、エビデンスとなる論文があり、日常診療の方針決定に議論があるもののみクリニカルクエスチョン（CQ）を設定し、日常臨床で通常に行われている診断・治療や、逆にエビデンスに乏しいものは総論で取り上げた。CQと論文評価はMindsの推奨する作成法に基づき、GRADE法を採用した。また今回、「膀胱癌の経過観察」「希少がん」を新規の章として取り上げた。その他の詳細は実際の改訂に携わった先生方に本特集で詳述していただいた。

膀胱癌克服の道のりははるかに遠く険しい。しかし、新しい診断法、新規薬剤、低侵襲手術の普及などにより着実に進んでいる。本特集がその理解を少しでも手助けできれば幸いである

山口大学大学院医学系研究科
泌尿器科学分野

松山 豪泰